

少年高齢化社会のまちづくりと共育ち

ともそだ

まちづくり会議
大麻元気倶楽部会長
安達 学

まちづくり会議「大麻元気倶楽部」は、まちと人の活性化を図るために商店街や地域住民の有志が集まって、二〇〇〇年六月に誕生いたしました。

性格から、やすらぎのある、居間型図の総合的な街へと変わる転換期にあります。そうした地域の事情を見据えながら、いろいろな活動をしてきました。

新しい名物作りにつながるならばと可能性を探っています。当倶楽部の事務所は大麻東町にあります。そこに、持ち主のご好意をいただいで「Eドリーム」という催し会場を作り、「ベトナムの子供の支援チャリティー・お話と音楽の夕べ」「夏祭りライブコンサート」「盲導犬育成チャリティー・指笛コンサート」

「関野吉晴のグレートジャーニー展」などさまざまな催しを開いてきました。今年のマシュマロピック協賛「大麻第二学区雪祭り」では実行委員会に参加し、コンサートやパソコン講座、また、まちづくり会議豊幌倶楽部の協力を得て、そばの手打ち教室や試食会なども行いました。地域文化活動という意識とともに、商店街に少しでも足を向けてもらえないか、という考えから行ったことです。いづれも思った以上に盛況で、住民の方々に喜んでもらえた

ようです。昨年一〇月に開いた地域の女性や身障者との懇談会では、いろんな話が細かく出ました。「歩道に車が止まり、特にお年寄りが困っている」などの声もあり、関係者に働きかけて駐車禁止の看板を立ててもらうなどの改善策もとりました。北海道盲学校の協力を得て、同校の敷地にパークゴルフ場を手作りしている「あじさい会」という地域団体がありませんが、その人々とも連携し、私どもができることを協力しています。地域の方々の生活の声を聞き、また地域団体、江別市とも協力「協働」しあいながら、人の輪を広げたいと思っています。地域の人々、市職員の見や活動には勉強させられることがいっぱいです。まちづくりは自分たちも成長することだと思いつく思います。「共育ち」です。当会の会員には三〇歳代から七〇歳代まで、いろんな方がいます。月一回例会を開き、「お年寄りや主婦のパソコン教室を開こう」とか「人生で蓄積した、人間力図を持つ高齢者にも、その力を発揮できる仕事の創出ができないか」「子どもたちが住み良いまち、つて、どんなだろう」など、いろんなことをしゃべり合っています。脈絡がないようですが、その一つ一つがまちづくりだと信じて、とにかくできるところから実行していこうと話合っています。

大麻は野幌原生林を背に、鉄道林と大きな公園に囲まれた緑豊かな街です。昨年、大麻小学校が開校一〇〇年を迎え、また、札幌のベッドタウンという性格で団地化され四〇年経ちました。団地の造成に伴ってこの地に生活の場を育み始めた人々も、六〇歳代～八〇歳代。ベッドタウンの

地鶏卵、低農薬のリンゴ、野菜など地元の農家の協力を得ながら販売して二時間あまりで完売した「秋の収穫祭」は、生産者と消費者の交流の場としても住民に喜んでもらったものです。注文を受けて買い物を代行し、お届けする宅配事業をはじめました。要望の強かったお年寄りの利便性を図り、同時に一つの仕事として成り立たないものかと立ち上げたものです。地域の要求に応えた、仕事興(おこ)し図の模索です。道立食品加工研究所の協力を得て、黒ナカマド(アロニア)の栽培と食材利用の研究にも取り組みました。子どもたちにも収穫に参加して貰い、ジャムを作ったり、お菓子屋さんへ食材として試してもらったり、

新しい名物作りにつながるならばと可能性を探っています。当倶楽部の事務所は大麻東町にあります。そこに、持ち主のご好意をいただいで「Eドリーム」という催し会場を作り、「ベトナムの子供の支援チャリティー・お話と音楽の夕べ」「夏祭りライブコンサート」「盲導犬育成チャリティー・指笛コンサート」

「関野吉晴のグレートジャーニー展」などさまざまな催しを開いてきました。今年のマシュマロピック協賛「大麻第二学区雪祭り」では実行委員会に参加し、コンサートやパソコン講座、また、まちづくり会議豊幌倶楽部の協力を得て、そばの手打ち教室や試食会なども行いました。地域文化活動という意識とともに、商店街に少しでも足を向けてもらえないか、という考えから行ったことです。いづれも思った以上に盛況で、住民の方々に喜んでもらえた

ようです。昨年一〇月に開いた地域の女性や身障者との懇談会では、いろんな話が細かく出ました。「歩道に車が止まり、特にお年寄りが困っている」などの声もあり、関係者に働きかけて駐車禁止の看板を立ててもらうなどの改善策もとりました。北海道盲学校の協力を得て、同校の敷地にパークゴルフ場を手作りしている「あじさい会」という地域団体がありませんが、その人々とも連携し、私どもができることを協力しています。地域の方々の生活の声を聞き、また地域団体、江別市とも協力「協働」しあいながら、人の輪を広げたいと思っています。地域の人々、市職員の見や活動には勉強させられることがいっぱいです。まちづくりは自分たちも成長することだと思いつく思います。「共育ち」です。当会の会員には三〇歳代から七〇歳代まで、いろんな方がいます。月一回例会を開き、「お年寄りや主婦のパソコン教室を開こう」とか「人生で蓄積した、人間力図を持つ高齢者にも、その力を発揮できる仕事の創出ができないか」「子どもたちが住み良いまち、つて、どんなだろう」など、いろんなことをしゃべり合っています。脈絡がないようですが、その一つ一つがまちづくりだと信じて、とにかくできるところから実行していこうと話合っています。



黒ナカマドの収穫



盲導犬チャリティーコンサートの1コマ



商店街でアイヌのお祭り

生きること学ぶこと

～私を癒してくれもの～



細田満男さん

やっぱり 会話☑️
対話☑️です

私が当園に入所してから今年で二年目を迎えるようになっている。もうそろそろ慣れてもいい頃だと思っただけが、今だに完全には慣れず用事のある所以外はまだ歩けないようなあり様。この度私を癒してくれるもの」というタイトルで依頼があったが、さて、いざとなると何を書いていいものやらさっぱり見当がつかない。でも思いつくまま書いてみる事にしよう。私が今一番癒されるのは、毎週ろくの会の方、毎月第二・第四月曜日にかまの灯りの会の方にお目にかかれる事だ。特にまちの灯りの会員の中で

ガイドヘルパーとして活躍しておられる方には実に懐しく思う。その方々とお話をし、またじかに朗読を聴かせていただきテープで聴くより一段と違った感じがする。これまでボランティアの方とは毎年夏にふれあい広場、それと四者交流会の時だけで折角お目にかかっても個人的な話はず、ここに入所してからはろくの会の方と一緒に仕事ができ、また個人的にお話もできる。まちの灯りさんとも朗読の合間にお話でき現役時代とはまた違った感じがする。江別身障協会・江視協の会員仲間だった人にその後の方の様子などを、また出掛ける時ガイドして下さった方とも時々電話でお話できる事。皆さんは毎日忙しい日々を送っておられるにもかかわらず、こころよく応じて



子ども囲碁教室

下さり本当に感謝に堪えないもう少し書きたいのだが、またの機会にし、今回はこれにて鉄筆を置く事にしよう。
(恵明園在園)

※点訳 くろくの会 斎藤さんへ いつも明るく元気で、何よりお話が大好きな物知博士的存在の細田さんです。

仕事にも好影響

仕事柄、人様の相続だとか遺言だとかの相談を承ることがよくある。(筆者は司法書士を営みとしている)

専門的な知識を開陳するのはここでは控えさせて頂くが、社会的見識に乏しい筆者にとっては、相談を通じてその人の人生をかいま見ることができ、その度に自分自身の生き様を考えさせられる。いや、それよりも自分自身の未熟さを実感させられる。

遺言を書くということは、思いのほか難しい。でもそれは法的な難しさだけによるものではない。遺言は人生の集約の一つであり、

若い頃には思ってもみなかった、人間の奥深い、ため息の出るような結論を出す事にならなからである。人は誰しもこの世に生を受け、年月を重ね、歳老いて滅び去る。「死が全てを絶対化する」「死が全てを厳粛なものにする」葬式などで、参

列者が思い思いに故人の生前を偲ぶのをよく見聞きする。しかし、それは、周囲の客観的評価に過ぎない。故人にとってその評価が果たして本意であるかどうかは定かではない。本意でないにしろ、それに反論することは勿論できない。死人は語る口を持たない。もし、是非ともと思うなら、化けてでるしか方法がない。筆者は、人見知りが大変激しい。知らない人と会話するのが大の苦手である。筆者が今、死を迎えたとすれば、恐らく周りの評価は「人とコミユニケートできない人間」ということで収束するだろう。でも、それはそれで良しとしよう。問題は、周りの評価より自分が、如何に充実した人生を送れたかなのだから…。

これをお読みの諸兄は、筆者をなんと暗い人間なのだと思われるかもしれない。断っておくが、筆者は人間と動物との関わり合いが大好きである。勿論、人に傷つけられたりすることもしばしばある。でも、同時に癒してくれるのも人間と言ふ動物である。筆者は仕事以外に2～3の



浅野善之さん

非営利団体に所属している。それは公益を目的としていたり、音楽の趣味を目的としていたり、様々である。

仕事をすると言うことは、ストレスを抱え込むことでもある。仕事は、人に生き甲斐を与えてくれるものが、人を癒してくれるものではない。筆者は、筆者が関わっている仕事以外の活動によって自分自身癒されていると感じている。このような活動に参加していることの意味は、仕事以外の人たちとの接点を広げられることにもあると考えている。世代・職業…まさに十人十色であるのだが、それでも共通する活動の下で、みんなが結束できるのは、とても意義深いと言える。勿論、そうした交流の中で、筆者自身の「司法書士」という存在や役割も、ある程度広めることができる筈だと思ふ。(青年会議所)

日本ボーイスカウト

江別第1団

ボーイスカウトは自立心のある青少年育成を目的とした世界的社会教育活動で、この日本ボーイスカウト江別第1団は昭和31年4月に発団した40年以上の歴史を持つ団体です。その活動は年齢別に5つのレベルに分かれていて、小学校入学前の9月(幼稚園年長)から入団できる「ビーバー」に始まり、「カブ」(小一～小五9月)、「ボーイ」(小五9月～中三9月)、「ベンチャー」(中三9月～20歳未満)、「ローバ」(18歳以上)となっています。



月2回、日曜の10時～12時頃に主として市内公民館や野外で行われる活動では、工作やキャンプなどを通して協調性・責任感などを養います。また、団員それぞれの個性に応じた特修章技能章も72種類あり、自己啓発のためチャレンジをしているところとあります。その他、活動としては、韓国ソウルの「ソウル343団」と友好提携

新隊員募集!

を結んで、1年交代でお互いの国を訪問し合っています。(昨年はあちらから約20名の隊員が来江しました)そして、今年8月に「第13回日本ジャンボリー」が大阪で開催されるので、それにも参加する予定です。

しかし、現在抱えている大きな問題は隊員数の減少で、班活動や隊活動をする上でこれは大変な痛手です。そこで団では新

隊員を募集します。特に最少の「ビーバー」に入ってくれる幼稚園年長のお子さんを歓迎します。「ビーバー」では早寝早起き、あいさつなどの生活習慣を身につけたり、花壇づくり、歌、工場見学などを体験しています。もちろんそれ以外のレベルにも入隊可能です。会費は、隊費(1万円・年)と登録料(2千五百円・年)が必要です。

この団の指導を担当するのは日本連盟(創立80周年)の研修機関修了者で、子どもが大好きな情熱的なボランティア達です。

田辺公博 Ⅲ383-2371
飛田時枝 Ⅲ384-0757
越中 勉 Ⅲ383-2482
詳細についてはこの3名にお問い合わせください。

協議会HP作成!

…待ってます
あなたからの情報…

前号でお知らせした江別市のホームページご覧になりましたか?

今回は今度こそ我協議会のホームページができる!! というお知らせです。

加入団体それぞれの年間イベントスケジュールやPRのページなど、広く皆さんに協議会の活動をPRする場所として、開設に向けとにかく(よく分からないなりに…)頑張ってます。

会員みなさまの普段の活動や新規会員の募集イベントのPRなど、どしどし情報をお寄せください。あなたからの生きた情報が協議会ホームページの源です。

詳しくは事務局まで。



「四つ目ちゃん」と呼ぶ人もいます。とにかく人なつこい性格で、ふつう柴犬という立派な番犬というイメージがあるのですが、この子は正反対。見知らぬ人には人には一応吠えてはみるけれど、しっぽはふりふり、かまってもらいたいという甘えが見え見えます。

毎日の散歩、えさやりなど何かと世話してあげてるようで実はこちらこそ精神的に救われているような気がします。目下のところ、この琥琳が私の心の癒しです。(大麻スポーツ振興会)



野坂しほさん

琥琳
MY・LOVE

持ち前の元気で、好奇心のせいか、私には好きなことがたくさんあります。映画、音楽、スポーツ、読書…それぞれ「心を躍らせる」「体を解放する」といった効用がありますが、仕事や家事などから生じる日々の疲れを即効的に癒してくれるのは、愛犬の琥琳(こりん)かもしれません。

2年前に知り合いのブリ一ダ一から譲り受けた雌の柴犬で、黒い毛並みに両目の上の白丸が目立つことから「お公家さま」とか「四つ目ちゃん」と呼ぶ人もいます。とにかく人なつこい性格で、ふつう柴犬という立派な番犬というイメージがあるのですが、この子は正反対。見知らぬ人には人には一応吠えてはみるけれど、しっぽはふりふり、かまってもらいたいという甘えが見え見えます。

また、直接触れ合わなくても、無心にボールを追いかけていたり、雪の中を嬉々として飛び跳ねていく姿を見ているだけで、私の心は和みほのぼのとしてきます。毎日散歩、えさやりなど何かと世話してあげてるようで実はこちらこそ精神的に救われているような気がします。目下のところ、この琥琳が私の心の癒しです。(大麻スポーツ振興会)

市内

市内学習ポイントの



ギャラリー文京台

ギャラリー文京台は、平成10年閑静な住宅街に誕生したギャラリーです。

やきもののまち江別では、たくさんの方が陶芸活動を楽しんでいます。また、それ以外にも絵画や版画、写真や手工芸などの文化・芸術活動も盛んです。こうした活動をより充実したものにするためには、多くの作品を鑑賞することが必要ではないでしょうか。

約20畳あるギャラリースペースは、照明設備等も整備されていて使い勝手が良く、年間30本近くに及ぶ作品展が開催されています。今年も12月までびっしりスケジュールが埋まっているので、気まぐれにぶらりと立ち寄っても何か作品に出会えそうです。

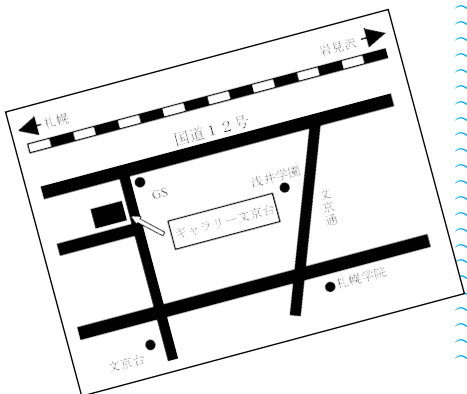
他にも、例えばミニコンサートを開けばご近所の方が集まってきたり、あるいは2階の和室ではちょっとしたサークル活動が行われたりと、文化交流の基地として着実に知名度が上がってきました。

文庫本を片手にギャラリーに出かけ、併設された喫茶店「トルテ文京台」の美味しい手作りケーキとお茶を注文し、静かに半日ぐらい過ごす。普段忙しい人の休日の過ごし方としておすすめです。

文京台51-6

TEL/☎ 387-1160

10:30~17:00 月曜定休



園部 真幸さん

マイ・ブーム

「生物としての人間」ということ

昨年、生涯学習フォーラムの基調講演で竹田津美氏は、次のようなことを述べられた。

人間は脳が暴走した結果、本来、生物の世界にはない特異なシステム（例えば弱いもの、汚いもの、鬱陶しいものを排除する社会）をつくり出してしまった。今、私たちに求められているのは、生物としての本来のあり方を取り戻し、他の無数の生き物と共生していくことである、と。

私にはこうした生物学や動物行動学からの人間へのアプローチの仕方が、とても新鮮に感じられ、以来この方面の本にはまっている。そこで、ぜひ皆さんにも読んでいただきたい、その道の専門家の二人の著書を紹介する。

一人目は、東京医科歯科大学の藤田紘一郎先生。今の日本は抗菌グッズで身を固めた超清潔志向の社会だが、「無菌の国ではヒトは生きられない」というのが先生の持論。寄生虫との共生がアレルギー一性疾患を抑制するとの自説を証明するため、実際に自分のお腹の中にサナダ虫を飼うという異端的行为により、学会では除け者になっているという『空飛ぶ寄生虫』恋する寄生虫(以上講談社)『清潔はビョーキだ(朝日新聞社)』他。

二人目は、動物行動学の竹内久美子氏。男と女の関係、人類の進化といったテーマを徹頭徹尾、利己的遺伝子の戦略という観点から説き解く。生物としての人間のあり様をつき詰めれば、遺伝子レベルの話に行き着くのは必然。今日のジェンダー論に欠けているのはこうした視点である。『浮気人類進化論』『そんなバカな!』(以上文春文庫)『男と女の進化論』(新潮文庫)他。

(事務局員)

協議会の会員に

なりませんか?

いつでも受け付けています

江別市生涯学習推進協議会にはいつでも加入することができます。

平成14年度からは協議会のホームページを利用して、加入団体の行事なども広くPRしていくことができるようになります。

会員になりたい方は事務局までご連絡ください。

また、「ら・ら・ら」へのみなさまからの原稿もいつでも大歓迎です。こちらも事務局までご一報ください。

- 【事務局】
- 江別市教育委員会生涯学習課
- ☎ 011-381-1062
- ☎ 011-382-3434

編集後記

今年の冬は暖かく、雪の少ない日が続いております。こういう日が続くとやはり過ごしやすくと感じてしまうのは私だけではないでしょう。でも、子どもは雪が降ると嬉しいみたいです。四才になるうちの子供も何時間でも雪山で遊んでいます。ちなみに人一倍冬が嫌いな私も子ども頃は初雪が降るのは待ち遠しかったですし、吹雪の日の集団下校なんかはワクワクしました。

た記憶があります。しかも三〇年ぐらい前は現在よりずっと寒く、雪も多かったように思います。今の親は寒いからと不必要に厚着させる傾向にあるといわれておりますが、そうすると体の抵抗力が弱まるだけでなく、人の痛みの判らない大人に成長するということですよ。そう考えると、私も寒くとも頑張って子どもと雪遊びをしなければならぬと感じてしまいます。

ともかく春はもう、すぐそこまで来ております。いくら雪が好き子どもにとってもやはり春は清々しいものです。今でも春になると土の乾いた匂いが街を覆っていたのを思い出します。最近は土が少なくなりあまり嗅がなくなりましたが……。

(大江)

